

留学生のための日本語アカデミック・ライティング 問題

2025.5.29 (木)
外国学図書館 LS

【問題文1】「色々な表現に関する項目」

私 (A) 大阪大学の中国文学研究室への所属を志望する理由として、貴研究室が専門としている領域と私の研究分野との密接的な関連性があげられます。私は現在、浙江大学で黄庭堅 (※1) の学問観に関する研究に取り組んでいます。本研究は、テキスト (※2) (B) 丁寧な分析による、宋代の知識人が科挙の試験勉強によって養った特徴的な認識の解明を目的としています。C唐宋期の詩および詩学に関して貴研究室が日本と中国とであげたりしている成果をうかがい、私自身もまた、貴研究室が率いる分野のさらなる発展を助け、ひいては中国文学研究の最前線における活躍ができる学者となるべく、貴研究室を志望いたしました。

※1：中国北宋時代の知識人で、政治家・書家・詩人・文学者でもある。

※2：英語で、Text のこと。文章や文献のひとつとまりを指して呼ぶ。

問1：下線部「(A)」に入る言葉として正しいものはどれか選んでください。

- a：は
- b：が
- c：の

問2：下線部「(B)」に入る言葉として正しいものはどれか選んでください。

- a：を
- b：での
- c：の

問3：下線部「C唐宋期の詩および詩学に関して貴研究室が国内外であげたりしている成果をうかがい」は日本語として不自然な文章になっています。それはなぜでしょうか。理由として最も適切な選択肢を選んでください。

- a：「唐宋期の詩および詩学」は「唐宋期の」を省略すべきではなく、「唐宋期の詩および唐宋期の詩学」と丁寧に書くべきだから。
- b：「たり」は文中で動詞が一つしかない場合には用いないほうがよいから。
- c：「うかがい」は「訪問する」の意味であり、成果を訪問することはできないから。

問4：波線部「密接的な」「特徴的な」はそれぞれ「○○的な」という表現を使用していますが、この二つのうち「的」が無くてもよいのはどちらでしょうか。

- a：密接的な
- b：特徴的な

【問題文2】「文法」

A：日本の大学に通う外国人留学生の数は、2019年以降、コロナ禍^(※1)の影響を受けて減少傾向にあったが、2023年には増加に転じた。文部科学省が2024年に発表された『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学数』等について」によれば、

B：2023年5月1日時点で、前年度に比べて20.8%増の27万9,274人にのぼるといふ。増加の要因は、「水際対策の段階的緩和」と「入国者数の上限の撤廃」。また、ネパール、ミャンマー、バングラデシュ、アメリカ合衆国^(※2)からの留学生数は、コロナ禍以前のものを上回るという。

C：このような状況下で、外国人留学生が日本で生活するうえで直面しうる諸問題について考えることは、外国人留学生が送る学生生活、および、そこに隠れている問題の両方の実態を無視したままでは、日本社会の円滑な国際化は難しいと考えられるため、急を要する課題であると言えるだろう。

※1：2019年末からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による災難や危機的状況を指す言葉。

※2：順に英語で、Nepal、Myanmar、Bangladesh、United States of Americaのこと。

○参考

・文部科学省『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学数』等について
(https://www.mext.go.jp/content/20240524-mext_kotokoku02-000027891.pdf)

問5：Aの部分において、修正したほうがよいのは、以下のうちどの点ですか。

- a：主語（Subject）もしくは述語（Predicate）が書かれていない。
- b：主語と述語の距離が遠すぎる。
- c：能動文（Active sentence）が受身文（Passive sentence）になっている。
- d：受身文（Passive sentence）が能動文（Active sentence）になっている。

※能動文とは、主語が動詞の動作をおこなうような文のこと。

問6：Bの部分において、修正したほうがよいのは、以下のうちどの点ですか。

- a：主語（Subject）もしくは述語（Predicate）が書かれていない。
- b：主語と述語の距離が遠すぎる。
- c：能動文（Active sentence）が受身文（Passive sentence）になっている。
- d：受身文（Passive sentence）が能動文（Active sentence）になっている。

問7：Cの部分において、修正したほうがよいのは、以下のうちどの点ですか。

- a：主語（Subject）もしくは述語（Predicate）が書かれていない。
- b：主語と述語の距離が遠すぎる。
- c：能動文（Active sentence）が受身文（Passive sentence）になっている。
- d：受身文（Passive sentence）が能動文（Active sentence）になっている。

【問題文3】「記号・文のマーカ―」

「方言圏(※1)論ろん」は、1930年に民俗学者(※2)として知られる柳田国男やなぎたくにおがAかぎゅうこう蝸牛考で提唱した学説である。柳田は蝸牛考において、蝸牛(カタツムリ(※3))を指す語に関する考えを述べており、B最初に近畿地方では「デデムシ」、次に中部地方、中国地方では「マイマイ」、第三に関東地方、四国では「カタツムリ」というように、同一の語が近畿地方を中心として波紋状に分布していることを発見した。この発見をもとに、柳田は、文化的中心地で新しい語が発生し、次いでその語が周辺部へと同心円状(※4)にいき渡っていくという仮説を唱え、また、この推察から、中心地から離れるほど語は古い時代のものになるという論を展開した。(C)、柳田は日本国内の離れた地域で同じ語形が分布する現象を説明してみせたのである。

(D)、現在この学説は、日本語の専門家である金田一春彦きんだいちはるひこや長尾勇ながおいさむらによる批判も存在している。実は蝸牛の例のようにこの学説にぴったりと当てはまる用例は限られているため、かならずしもこの学説が適当とは言えないのである。続けて、金田一や長尾らが批判した内容を具体的にみていこう。

……

※1：圏。まわり。

※2：英語で、folkloristのこと。民族の伝統や伝承文化を研究する学者。

※3：英語で、snailのこと。陸に生息する貝の仲間。🐌

※4：同一の中心に対して、異なる半径を持つ円が重なり、樹木の年輪のように何層にも囲まれている形状のこと。

問8：下線部「A蝸牛考」は本のタイトルです。本のタイトルを日本の論文に書くときの様式として正しいものはどれですか。

- a：《蝸牛考》
- b：“蝸牛考”
- c：『蝸牛考』
- d：「蝸牛考」

問9：下線部「B最初に近畿地方では……というように」とありますが、選択肢のように一か所だけ文章を直す場合、最も文章が読みやすくなるものはどれですか。

- a：「最初に」を「第一に」に変える。
- b：「次に」を「また」に変える。
- c：「第三に」を「そして」に変える。

(設問は次のページへ続きます)

問 10：下線部「(C _____)」に入る選択肢として最も適切なものはどれですか。

- a：いわば
- b：つまり
- c：結局のところ

問 11：下線部「(D _____)」に入る選択肢として最も適切なものはどれですか。

- a：しかし
- b：ただし
- c：また

留学生のための日本語アカデミック・ライティング 問題 解説

2025.5.29 (木)
外国学図書館 LS

【問題文 1】 色々な表現

問1 答え b

❗ポイント 「は」と「が」 : 「は」は後のこと、「が」は前のことを伝えたい

私は…研究室への所属を志望する → 「志望するもの・こと」を伝えたい。

私が…研究室への所属を志望する → 「志望する人」を伝えたい。



本文は研究室を志望する理由の記述。

「研究室を志望すること」は書く人と読む人との間ですでに分かっている(前提)。

ここであらためて伝えるべきは「私(書き手)が志望する」こと。

正解はbの「が」。

※「の」は、名詞を長い文で説明するときには使われない(不自然な文になる)。

× 私の [大阪大学の中国文学研究室への所属を]志望する理由 → []の中が長い。

○ 私の [考える]理由 → 「私」と「理由」の間の語は「考える」だけであり、短い。

問2 答え c

❗ポイント 文中の言葉の役割 : 言葉の文中の役割を考えよう

テキストを丁寧に分析する

→ 「テキスト」は「分析する」という動詞〈Verb〉の目的語〈Object〉。

テキストの丁寧な分析

→ 「テキスト」は「分析」という名詞〈Noun〉(が意味する動き)の対象。



「丁寧な分析による…」から、「分析」は名詞。また、丁寧なという言葉の形にも注目。
正解はcの「の」。

※「での」は、「で」+「の」で、動きを表す名詞を説明する。

「で」の意味によって色々な意味になるが、名詞(が意味する動き)の対象を説明する役割はない。

パソコンでのライティング → パソコンで(手段)書きものをする。

電車でのマナー → 電車 で(場所) 守るべきルールのこと。

チームでの取り組み → チーム で(主語 〈Subject〉) 取り組むこと。

問3 答え b

❗ ポイント 「たり」の使い方：「AしたりBしたり」の形が基本

△ 貴研究室が国内外であげたりしている成果

→ 「たり」は、基本的に同じ文で二回使う。

○ 貴研究室が国内外であげている成果

→ 他に並べる動きがないのであれば、使わない。

○ 貴研究室が国内外であげている複数の成果

→ 「成果を何度もあげている」ことを言いたいのであれば、「複数の」を用いる。

※決まった表現は、間違っても使うと不自然になる。基本の型をそのまま覚えよう！

△ 次の例を示したい。というのも、それがこの問題に深い関わりがある。

○ 次の例を示したい。というのも、それがこの問題に深い関わりがあるからだ。

△ ...に関してはおそらく誤った表記であるが、原文のまま引用する。

○ ...に関してはおそらく誤った表記であると思われるが、原文のまま引用する。

問4 答え a

❗ ポイント 「的」の使い方：「名詞 〈Noun〉 + 的」で別の名詞を説明する

× 私の研究分野との密接的な関連性

○ 私の研究分野との 密接な関係性/密接した関係性

→ 「密接」は、「密接する」または「密接だ」という言葉の一部であり、純粋な名詞ではない。

※「……的」という言葉は、「……」に入る名詞によって、容認度(多くの人が自然に感じる程度)がそれぞれ異なる。

適当に組み合わせないこと・実際に見かけた表現以外は使わないことを心がけよう。

または、ネットで検索して実際の用例が存在するかを事前に確認するようにしましょう。

【問題文2】 文法

問5 答え c

□ ポイント 能動文と受身文 : 主語と述語の能動・受身の関係を意識しよう

- × 文部科学省が…発表された「～」によれば…
- 文部科学省が…発表した「～」によれば… ← 能動文 AがBした「～」
- 文部科学省により…発表された「～」によれば… ← 受身文 AによりBされた「～」

≪よく見かける間違い≫ 日本人の学生でもよく間違えるので、要注意!

- × 山田他 (1995)では、(引用文)と説明している。
→ 「説明している」の主語がない。
あるいは、「説明している」が能動文になっている。
- 山田他 (1995)では、(引用文)という説明がおこなわれている。
→ 「(引用文)という説明」を主語にして、受身文にする。
- 山田他 (1995)は、「(引用文)」と説明している。
→ 「山田他 (1995)」を主語にして、能動文にする。

問6 答え a

□ ポイント 主語と述語 : 主語または述語が欠けないように意識しよう

△ ...前年度に比べて20.8%増の27万9,274人にのぼるという。

→ 主語が書かれていない。

○ ...その総計は前年度に比べて20.8%増の27万9,274人にのぼるという。

× 増加の要因は、「水際対策の段階的緩和」と「入国者数の上限の撤廃」。

→ 体言止め(名詞で文を区切ること)はフォーマルな報告書では使われない。

○ 増加の要因は、「水際対策の段階的緩和」と「入国者数の上限の撤廃」であるとされている。

※述語を文の最後に書く日本語では、主語の書き忘れや、主語と述語の不一致がおきやすい。主語と述語が正しく対応しているか、必ず確認するようにしよう。

△ この選挙でかわっているのは、[...]じぶんの選りたい人の名前の所にあるハンドルを、ガチャンとおすだけでよいのです。(岩淵 2016:137)¹

¹ 岩淵悦太郎 編著 (2016)『悪文 伝わる文章の作法』角川ソフィア文庫

- この選挙でかわっているのは、[...]じぶんの選びたい人の名前の所にあるハンドルを、ガチャンとおすだけでよいということです。

問7 答え b

【!】ポイント 主語と述語の位置 : 主語と述語が離れすぎないように意識しよう

△ このような状況下で、外国人留学生在が日本で生活するうえで直面しうる諸問題について考えることは、

[外国人留学生在が送る学生生活、および、そこに隠れている問題の両方の実態を無視したままでは、日本社会の円滑な国際化は難しいと考えられるため、]

急を要する課題であると言えるだろう。

→ []内の青色の字で示した部分は、すべて理由を説明するための別の文。

主語「…について考えること」と、述語「急を要する課題である」との位置が、[]の文によって離れてしまっている。

- このような現状をはじめとする、[外国人留学生在が送る学生生活、および、そこに隠れている問題の両方の実態を無視したままでは、日本社会の円滑な国際化は難しいと考えられる。そのため、] 前述のような状況下で、外国人留学生在が日本で生活するうえで直面しうる諸問題について考えることは、急を要する課題であると言えるだろう。

→ []の文をはじめに移すと、主語と述語の距離が近くなり、読みやすい文になる。

※ 「○」の文では、「△」の文をわけて、それら二つの文を接続詞「そのため」でつなげている。日本語では、一文が長くなると、**「。」と適切な接続詞を使って文を分けると読みやすくなる**ことが多い。ライティングのコツとして覚えておこう。

また、文の位置を入れ替えるとき、指示をする言葉の表現や文のはじめの表現が変わるかもしれないことにも注意しよう。

今回は指示する内容と指示される内容との間に距離があるため、「このような」を「前述のような」に変えている。

△ 「このような状況下で」 (指示する内容が近い)

→ ○ 「前述のような状況下で」 (指示する内容が遠い)

- の文のはじめに「このような現状をはじめとする～」を追加 (前の文とつなげる必要があるため)

【問題文 3】 記号・文のマーカ

問8 答え c

□ ポイント 「」と『』 : 「」は引用に、『』は著作のタイトルに用いるのが基本

「」 〈かぎかっこ〉 文や用語をそのまま引用するとき用いる。

- ・…近畿地方では「デテムシ」、…中国地方では「マイマイ」、…四国では「カタツムリ」…
- ・間主観性という言葉に関して、辻 (2013)は、「事態の知覚や意味というものは、個人レベルの主観で成立するのではなく、集団を構成する複数の主観で共同的に成立するという考え方を言う」²と定義している。

※個人的な意味を加えて言葉を強調するときや、ある語を部分的にとりだして書くときにも用いる。

- ・おもてなしには、相応の所作や言葉遣だけでなく、「心」も必要とされるのだ。
→ 「心」には、「やさしさ」や「思いやり」などのニュアンスが加えられる。
- ・「たり」は、通常二つ以上の動作を並列するとき用いる。

『』 〈二重かぎかっこ〉 本のタイトルを引用するとき用いる。

- ・[コペルニクスは]1510年には地動説を述べた『コメンタリオルス』という冊子を作成し、ごく少数の友人たちに贈った。(古牧 2022:176)³

※「」のなかでさらに「」が現れるときにも用いる。

- ・これは突き詰めれば「『存在』という概念は単なる概念にすぎないのか、あるいは何らかの仕方ですべて存在しているのか」ということに行き着く。(古牧 2022:109)

問9 答え c

□! ポイント 要素を並べるマーカー : 「第一に」系、「最初に」系、「まず」系を覚えよう

- A. 「第一に」系 第一に***、第二に~~~、第三に###...
- B. 「最初に」系 最初に/はじめに***、続いて/次いで~~~、その後/最後に###...
- C. 「まず」系 まず***、つぎに~~~、さらに/そして###...

※Aグループの言葉とBグループの言葉は、まぜて使わないほうがいい。

Cグループの言葉はAグループまたはBグループの言葉とまぜて使うことができる。

² 辻幸夫 編 (2013)『新編 認知言語学キーワード事典』研究社

³ 古牧徳生 (2022)『君ならわかる哲学』春秋社。続く引用も同書。

△ 第一に***、次いで~~~、第三に###... ← A グループ + B グループ

○ はじめに***、つぎに~~~、最後に###... ← B グループ + C グループ

問10 答え b

❗ ポイント **言い換え**のマーカー : 文の**はじめ**と**最後の形**をまとめて覚えよう

つまり...**のである/のだ**。

他 すなわち、ようするに など

※「いわば」は、前に出てきた言葉を分かりやすく言い換えて説明するときに用いる。

・その下に位置するのが、文書・秘書職系であり、**いわば**一般職である。
約2万人強いる。(ウェブページより引用)⁴

→ 「文書・秘書職系」が、「一般職」に言い換えられている。

※「結局のところ」は、最終的な結論や出来事の結末をいうときに用いる。

・実際に第二次世界大戦前の各国海軍では航空戦艦の設計や提案は多くなされており、実現寸前までいったものもある。しかし**結局のところ**新造艦としての航空戦艦は一隻も実現していない。(ウェブページより引用)

→ 戦争を振り返って、航空戦艦の実用に関する結果が説明されている。

問11 答え a

❗ ポイント **逆説表現**のマーカー : 接続詞は**効果的に使おう**

段落1 柳田がAという学説を唱えた。

⇔ **対立**の関係

→ 逆説の接続詞「**しかし**」を用いる。

段落2 学説Aには批判が存在する。

「**しかし**」は読む人に強い印象を与えるので、段落のはじめに使用するほうがよい。
(文中で気軽に使うと対比がうまくいなくなる可能性があるので要注意！)

× 島の子どもたちは、考えることは、ニガ手なのです。**しかし**、けんかひとつしたこともないほど仲がよいのに、その仲間の協力を、学習の方に生かそうとはしなかったのです。(岩淵 2016:103)

→ 「**しかし**」の前と後ろがはっきりと対比されていない。

○ 島の子どもたちは、考えることは、ニガ手なのです。けんかひとつしたこともないほど仲がよいのに、その仲間の協力を、学習の方に生かそうとはしなかったのです。

→ 「**しかし**」がないほうが自然な文になる。

⁴ 用例.jp <<https://yourei.jp>> にて、「いわば」で検索。続く例も同じ。(最終アクセス日 2025年1月8日)

※「ただし」は補足の説明をおこなう。「また」は前の内容に情報を加える。

→ 詳しくは配布する「接続詞表現のまとめ」を確認しよう！

接続詞表現 まとめ

参考文献: 石黒圭 (2008) 『文章は接続詞で決まる』 光文社

1. 文頭の接続詞

★太字で下線の引かれた語は論文の執筆に使用しやすい表現。

種別	類別	系統	特色と該当する語
論理の接続詞	順接	「だから」系	先行する文脈と後続の文脈が原因－結果の関係にあることを明示する。 【例】だから、したがって、ゆえに、よって、 <u>そのため</u> 、それで
		「それなら」系	先行文脈の命題の存在を仮定し、その結果を導く。 【例】それなら、 <u>それでは</u> 、 <u>すると</u> 、そうすると、そうしたら、だとすると、 <u>だとしたら</u>
	逆接	「しかし」系	先行する内容から無理なく想定できる、含意に反する展開を提示する。 【例】しかし、だが、でも、それでも、 <u>とはいえ</u> 、そうはいうものの
		「ところが」系	後続する文脈に強い意外感をもたらす。 【例】 <u>ところが</u> 、にもかかわらず、それなのに
整理の接続詞	並列	「そして」系	情報の添加。 【例】そして、それから、また ※「そして」は最後に重要な情報を加える。「それから」は並列の添加。
		「それに」系	累加。既に提示した情報に重ねて示す。 【例】それに、そればかりか、 <u>そのうえ</u> 、しかも、ひいては
		「かつ」系	論理を重視した並列。文語的。 【例】かつ、 <u>および</u> 、 <u>ならびに</u>
	対比	「一方」系	二つの物事を並べ、相違点を提示する。 【例】一方、 <u>他方</u> 、それにたいして、 <u>反対に</u> 、 <u>反面</u> 、 <u>逆に</u>
		「または」系	複数の選択肢を示す。 【例】 <u>または</u> 、もしくは、 <u>ないし(は)</u> 、 <u>あるいは</u> 、それとも
	列挙	「第一に」系	文章中において箇条書きの効果を示す。 【例】 <u>第一に</u> 、 <u>第二に</u> 、 <u>第三に</u>
		「最初に」系	順序を重視して列挙する。 【例】 <u>最初に</u> /はじめに、 <u>続いて</u> /次いで、その後/ <u>最後に</u> ※「第一に」系との併用は基本的に不可。
		「まず」系	汎用性の高い列挙 【例】 <u>まず</u> 、 <u>つぎに</u> 、 <u>さらに</u> ※「第一に」系あるいは「最初に」系との併用が可能。

理解の接続詞	換言	「つまり」系	<p>先行する文脈の内容を保ちながら、端的な言い換えをおこなう。</p> <p>【例】<u>つまり</u>、<u>すなわち</u>、<u>ようするに</u>、<u>いいかえると</u>、<u>換言すると</u>、<u>いわば</u>、<u>いってみれば</u></p> <p>※「つまり」「ようするに」は、続く言い換えに、読み手にわかりやすくなるようにするための書き手の主観や解釈が入る傾向にある。</p> <p>※「すなわち」は、先行する文脈と後続の文脈の対称性が保たれ、書き手の主観や解釈が入りにくい。</p>
		「むしろ」系	<p>先行する文脈の内容を否定的に受け継ぎ、後続の文脈でその否定的な内容を肯定的な内容で埋める。</p> <p>【例】<u>むしろ</u>、<u>かえって</u>、<u>そうではなく</u>、<u>いな</u>、<u>というより</u>、<u>というか</u>、<u>かわりに</u>、<u>そのかわりに</u></p>
	例示	「たとえば」系	<p>抽象から具体への橋渡しを担う。</p> <p>【例】<u>たとえば</u>、<u>具体的には</u>、<u>実際</u>、<u>事実</u></p>
		「とくに」系	<p>先行する文脈の内容に特別よく当てはまりそうな例を予告する。</p> <p>【例】<u>とくに</u>、<u>とりわけ</u>、<u>こと(殊)に</u>、<u>なかでも</u></p>
	補足	「なぜなら」系	<p>理由を予告する。</p> <p>【例】<u>なぜなら</u>、<u>なにしろ</u>、<u>なにせ</u>、<u>というのは</u>、<u>というのも</u></p> <p>※これらの接続詞を使用せずに「～からです。」で理由を示したほうが洗練した文章となる。</p>
		「ただし」系	<p>先行の文脈において不足していた関連情報を補う。</p> <p>【例】<u>ただし</u>、<u>もっとも</u>、<u>なお</u>、<u>ちなみに</u></p> <p>※「ただし」は、先行する文脈の成立を保証するために必要な条件を補完する。</p> <p>※「なお」は、本筋からは外れるが必要な情報を提示する。</p>
展開の接続詞	転換	「さて」系	<p>それまでの話題とは別の話題を持ち込む。</p> <p>【例】<u>さて</u>、<u>ところで</u>、<u>それにしても</u>、<u>それはそうと</u>、<u>それはさておき</u></p> <p>※「さて」は事前の綿密な論理構成のうえで話題の重要な分岐点に用いる。</p> <p>※「ところで」は自由な連想にもとづく話題の切り替えに用いる。</p>
		「では」系	<p>話の核心に迫ることを予告する。</p> <p>【例】<u>では</u>、<u>それでは</u></p>
	結論	「このように」系	<p>先行する文脈の内容を大きくまとめる。</p> <p>【例】<u>このように</u>、<u>こうして</u>、<u>かくして</u>、<u>以上</u>、<u>結局</u></p>
		「とにかく」系	<p>先行の文脈で提示された様々な意見に決着をつけ、一応の結論を示す。</p> <p>【例】<u>とにかく</u>、<u>いずれにしても</u>、<u>いずれにしろ</u>、<u>どっちにしても</u>、<u>どっちみち</u></p>

2. 文末の接続詞

種類	系統	特色と該当する語
否定の文末接続詞	「のではない」系	否定表現によって文脈に不安定性をもちこみ、読み手に疑念を抱かせた後で肯定の表現を示す。 【例】 <u>のではない</u> 、 <u>名詞+ではない</u> ※英語の「not…but～」に類似。日本語では but にあたる表現を用いず、上記の表現に続けて肯定の内容を記す。
	「だけではない」系	該当するものが一つだけではなく複数あることを予告する。 【例】 <u>だけではない</u> 、 <u>ばかりでない</u> 、 <u>にかぎらない</u> 、 <u>にとどまらない</u> ※英語の「not only…but also～」に類似。日本語では but にあたる表現を用いない。後続する文で also にあたる副助詞「も」が使用される傾向にある。
疑問の文末接続詞		疑問を提示する。 【例】 <u>か</u> 、 <u>のか</u> 、 <u>のだろうか</u> ※「か」→「のか」→「のだろうか」の順で疑問としての力が高まる。
説明の文末接続詞	「のだ」系	内容をとりまとめる。 【例】 <u>のだ</u> 、 <u>わけだ</u> 、 <u>のである</u> 、 <u>わけである</u> ※「のだ」「のである」は内容上のまとまりを作り、文章構造の見通しをよくする。先行する文脈における説明の全体像が初めて見える場所に使用する。 ※「わけだ」「わけである」は先行する文脈に述べられた内容を根拠にした推論をおこなう。使用は、自信をもった推論を示すことができる場合に限り推奨される。
	「からだ」系	先行する文脈の理由を示し、読み手が抱いている違和感や疑念を軽減させる。 【例】 <u>からだ</u> 、 <u>ためだ</u> 、 <u>からである</u> 、 <u>ためである</u> ※「からだ」「からである」は理由の補完に使用され、文頭の接続詞「なぜなら」との相性がよい。ただし、「なぜなら」を使用せずに「からだ」「からである」のみで理由を示したほうが自然である。
意見の文末接続詞	「と思われる」系	書き手の判断に必然感を加える。書き手の積極的な判断ではなく、むしろ「自然にそうなる」という帰結を表す。 【例】 <u>と思われる</u> 、 <u>と考えられる</u> 、 <u>と言える</u>
	「のではないか」系	断定を避け、慎重な判断を示す。判断の控えめな提示によって、書き手の意見を読み手に受け入れやすくする。 【例】 <u>のではないか</u> 、 <u>のではないだろうか</u> 、 <u>名詞+ではないか</u> ※推量の表現「だろう」が含まれる「のではないだろうか」では、判断への慎重な姿勢が強く表される。
	「必要がある」系	先行する文脈を踏まえて、望ましい見解を示したうえでそれまでの話をまとめる。 【例】 <u>必要がある</u> 、 <u>べきである</u> 、 <u>なければならない</u> 、 <u>てはならない</u>